誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

思考力の効果的な身につけ方とは？

早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田　貴一

最近の傾向として、中学受験に備えて1、2年生から塾に通わせるご家庭が増えてきました。しかし、中学受験はもちろんのこと、高校受験や大学受験でさえ、長い人生においてはひとつの通過点でしかありません。では、何を最終目的として考え、子どもたちに勉強させれば良いのでしょうか。また、その最終目的を達成するためには、どんな勉強が必要なのでしょうか。これらのことについて考えてみましょう。

中学受験の先にあるものを見据えた学習を！

日本の教育問題を語るときにキーワードとして必ず出てくるのが「学力低下」という言葉です。さまざまな国際的な調査でも、日本の学生・生徒の学力低下が進んでいるという結果になっているものがあるようです。最近何年間かの報道では、「学力低下」の原因は「ゆとり教育カリキュラム」にあると言われることもあるようですが、実は違います。「学力低下」そのものは1990年代に、大学から言われ始めたものなのです。大学に新しく入ってきた生徒たちが、大学で学ぶべき内容を身につけるだけの素地ができていない、というのがもともとの話でした。「ゆとり教育カリキュラム」は2002年から施行されたものですので、「学力低下」に拍車をかけたと言うことはできますが、そもそもの学力低下の要因ではなかったということです。

では、そもそもの「学力低下」の要因は何かということになると、議論が大きくなりすぎますので、ここでは割愛します。日本の大学そのもののシステムや入試制度が要因と言われることもありますし、高校までのカリキュラムや学習システムの問題と言われることもあるようです。ただ、一方で私は、大学で学ぶべきことのレベルが上がったことも大きな要因であると考えています。

ここ20年で世界は大きく発展してきました。社会が多様化し、より専門性の高いことを大学で学ばなければならなくなっているのが現代社会だと、私は思います。しかし、一方で高校生までの学習カリキュラムは大きな変更がないようです。大学が求める力が上がってきているのに、高校3年生までの学力が変わっていない。学力が“低下”したというよりも、相対的に見た場合に“低くなってしまった”ということも言えるのではないでしょうか。国際的な調査における結果も、日本が下がったというより、日本よりも向上した国が多くなったため、学力が大きく下がっているように見えているということなのかもしれないと考えることもできます。

求められる「学力」は「思考力」

では、“低下”している学力は何かということを考えてみましょう。逆から考えてみれば、実は比較的簡単に答えが出てきます。

大学は言うまでもなく、将来を担う人材を育成し、社会へと送り出す最終教育機関です。今の社会に必要とされる力を育成することが必要なわけです。ですから、今の社会を考えてみれば、必要とされる力を考えることができるはずです。今の社会においては、「知識の豊富さ」や「すばやく正確に処理をする力」ももちろん必要ではありますが、何よりも「自分で考えていく力」が必要になると思います。そして、それこそが大学で学ぶべき学力であり、大学が新入生に求めている力なのです。その結果、先程も申し上げたように、大学の二次試験では「思考力」を試す出題が増えてきているのです。

難関大学が附属中学・高校を充実させているのは…

最近では、中学入試傾向のひとつとして、難関大学の附属が中学入試に参入してきていることが挙げられます。早稲田大学の直系附属中学校としては初めてになる、早稲田大学高等学院中学部が2010年に新設されたのは記憶に新しいことと思います。中央大学も、やはり2010年に中央大学附属中学校を開校するとともに、横浜山手女子中学校を系属化し、中央大学横浜山手中学校に改称しました。

これらの背景には、もちろん、少子化社会の中で、なるべく早い時点で自大学への進学者を確保しておきたいという思惑もあるでしょう。大学全入時代を迎え、これから先、生き残っていく大学は、きちんとした教育を行い、社会貢献ができる大学であると同時に、私学に関しては、附属校を全国に数多く持っている大学であると言われることもあります。

しかし、附属校の中学入試参入は、生徒の“青田買い”が本来の目的ではないと私は考えています。自大学で学ぶために必要な力を身につけさせるためには、早い段階からしっかりとした教育を行うことが必要であると大学側が考えたからだと思うのです。来年の春に開校を予定している慶應義塾横浜初等部なども、こういった考えを反映してのことだと思います。

中学受験でも「思考力」を試す問題が合否の鍵に

前述しましたように、難関大学の二次試験が「思考力」を試す問題になってきています。その結果、将来の大学入試を目指す進学校と呼ばれる中学校の入試問題でも、「思考力」を試す問題が増えてきています。つまり、大学入試で起こっていることが、中学入試の段階でも始まっているということです。以前、開成中学が国語の入試問題で、中学入試としては非常に長い文章で、本文中に傍線も空欄もまったくない問題を出題したことがあります。実は、この出題形式は東京大学二次試験の出題形式と同じなのです。このように、大学附属中学の入試問題でも「思考力」が試される入試問題が多く出題されるようになってきています。

そして、中学入試においても志願者＝学校定員となる“全入時代”を迎えている今、難関校になればなるほど、一つの学校を志願している生徒の学力レベルは幅がせばまり、実力が伯仲してくる中では、覚えている知識の量は大差がなく、作業処理上のミスなどでは差がつかなくなってきてもいます。その中で、「思考力」が試される問題が勝負の鍵を握るようになってきているのです。

今、将来につながる「思考力」の育成を！

ここまでお読みいただければご理解いただけると思うのですが、お子様は中学受験のために、「思考力」を身につける学習を行っているのです。たとえば、“漢字の学習”を例にとってみましょう。どこの塾でも国語の時間には漢字テストが行われています。これは「漢字を覚える（知識力）」「丁寧に正確に書く（作業処理力）」の学習のように思われます。もちろん、その要素もありますが、一方で「どのように練習をすれば漢字が効率的に覚えられるのか」を考えさせる学習でもあるのです。ですから、「漢字練習帳に繰り返し書きなさい」と作業方法を指示するのではなく、「きちんと覚えてきなさい」と結果の指示をすることで、自分なりの学習方法を身につけていくことになります。

今、お子様が学んでいるものが「知識」や「作業処理力」ではなく、「自ら考え、判断し、解決していく力」であることをご理解いただければ、ご家庭でお子様を指導していただくときにも、その方法は変わってくると思います。

そして、こういった「思考方法」の育成は、低中学年のうちに行うべきものであり、それが将来の成長へとつながっていくのです。

ブログ 福田貴一の四つ葉Café 公開中！

早稲田アカデミーホームページ・四つ葉 café にて公開

中学受験に関するブログを公開しております。
このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関する様々な情報をお伝えします。
また、お子様と一緒にチャレンジする写真クイズも公開しておりますので、ぜひ親子で楽しんでみてください。

詳細はホームページをご確認ください。 早稲田アカデミー 検索

「思考力」と「知識力・作業処理力」

この雑誌をお読みいただいている保護者の皆様の多くは、「勉強」と聞くと、「新しい知識を得ること（知識力）」と「その知識を使って正確に処理ができるようになること」というイメージを持たれる方が多いのではないでしょうか。たとえば、算数や数学で言えば、まずは公式や解き方を覚えること（知識力）。そして、それを使って計算し、なるべく素早く正しい答えにたどり着く（作業処理力）。このような学習が昔は一般的でした。学校カリキュラムの中でも、重きをおかれていたのはこういう学習です。大学入試のセンター試験は、この「知識力」と「作業処理力」が試される試験というイメージでご理解いただけるのではないでしょうか。そして、一次試験であるセンター試験において、こういった力が試されているために、各大学で実施される二次試験は「思考力」を試す問題が出題されるようになってきているのです。

「学力低下」とは何か？